

農林水産大臣

鹿野道彦様

宝の海・有明海の再生を願って

～届けよう！私たちのおもい～

平成22年9月30日

佐賀県

佐賀県議会

佐賀県有明海沿岸市町水産振興協議会

佐賀県有明海漁業協同組合

宝の海・有明海の再生を願って

～届けよう！私たちのおもい～

宝の海・有明海は、世代を超えて共有すべき県民の共通の財産であり、有明海の再生は、漁業者のみならず県民の切なる願いです。

そこで、平成22年7月22日、佐賀市内で、「宝の海・有明海の再生を願う佐賀県民大会」を開催しました。

大会では、有明海沿岸の小学生、有明海の調査研究をしている研究者（行政職員）、有明海で漁業を営んでいる方、有明海沿岸の干拓地で農業を営んでいる方、有明海を環境教室・干潟体験・観光資源として活用している団体、有明海を守るために山で自然体験や環境保全活動を行っている団体、平野部で自然体験や環境保全活動を行っている団体、海岸部で海岸や流入河川の清掃などを行っている高校生など、有明海で「くらし」、「たのしみ」、また、これを「まもる」方たちから有明海との係わりについての報告を受けました。

大会は、佐賀県、佐賀県議会、佐賀県有明海沿岸市町水産振興協議会、佐賀県有明海漁業協同組合の四者が主催者となり、市町長会、市町議長会、経済界、商工会、農協、森林組合、建設業界、消費者グループ、地域活動団体など19団体に後援をいただいて、当日は、漁業者、主催及び後援団体の関係者や一般県民約1,000人が参加する中で開催し、右のとおり、「有明海再生への私たちのおもい」が佐賀県民の総意であることを確認しました。

この私たちのおもいをしっかりと受けとめていただき、有明海再生のために全力を尽くしていただきますようよろしくお願いいたします。

有明海再生への私たちのおもい

有明海は、日本一広大な干潟を有する内湾であり、ムツゴロウ等の貴重な種をはじめ多種多様な生物が生息しています。

さらに、国内最大のノリ漁場を形成するなど、漁業者をはじめ県民にとって「宝の海」であります。

しかしながら、今、有明海は、昔に比べ流れが遅くなったり、流れの向きが変わったり、赤潮の発生が多くなったりと漁場環境が悪くなり、貝類などが採れなくなっています。

私たちは、本日、様々な形で有明海にかかわっておられる方々から、

- 有明海が、なぜ宝の海といわれるのか
- その有明海が、今、どうなっているのか
- 干拓地での農業は課題をひとつひとつ乗り越えてきた
- 私たちは有明海を楽しみ、有明海からやすらぎを得ている
- 有明海は、山から海までの全ての県民の力で守っている

などについて報告を聞き、改めて、有明海が世代を超えて共有すべき全ての県民共通の財産であることを、確認しました。

このことは、佐賀県民のみならず、有明海の沿岸に生きる全ての人々にとっても同じことでもあります。

私たちは、有明海が再生することによって、有明海とその周辺に生きる全ての人たちが、豊かになるようにしていきたいと思っています。

このため、私たちは有明海環境変化の原因を調べるため、諫早湾潮受堤防排水門の開門調査が必要だと考えていますが、有明海を元の豊かな海に再生しようとして行う様々なことで、誰かが犠牲になってはいけません。

有明海を「宝の海」として次の世代に引き継ぐため、今、できること、しなくてはならないことをきちんとやること、それが有明海の周りに住む私たちの責任だと思います。

そのために、皆で力を合わせ、有明海を再生したい、それが私たちのおもいです。

平成22年7月22日

「宝の海・有明海の再生を願う佐賀県民大会」